

## 外来患者における非ビタミンK阻害経口抗凝固薬の服用用量適正化に対する試み

橋本 千聖<sup>1)</sup> 中根 丈晴<sup>1)</sup> 関口 浩之<sup>1)</sup> 神澤 孝夫<sup>2)</sup> 美原 盤<sup>3)</sup>

1)脳血管研究所美原記念病院 薬剤部

2)脳血管研究所美原記念病院 脳卒中部門

3)脳血管研究所美原記念病院 院長

**【目的】**心原性脳塞栓症発症予防に関するワルファリンの under dose の問題は、非ビタミンK阻害経口抗凝固薬（NOAC）の登場により解消されると思われていた。しかし、NOACにおいても不適切な用量で使用されているケースが多いことが報告されている。そこで今回、当院外来患者におけるNOACの服用用量の適正化を目的に薬剤部が介入した。

**【取り組み】**平成27年4月時点でNOACを服用している外来患者175例（ダビガトラン83例、リバーロキサバン63例、アピキサバン29例）を対象に、添付文書に基づいた用量の適切性について調査した結果、28例（16%）が不適切であった。そこで、当該症例に関して、薬剤師から医師に処方提案を実施（5月時点で16例）した結果、8例の処方が適切な用量へ変更となった。